



基本領域 病理専門研修

連携

- 京都大学医学部病理専門研修プログラム
- 神戸大学医学部附属病院病理専門研修プログラム
- みやこ病理専門研修プログラム

1. 病理診断科の理念・特色

病理診断科では、生検や手術などにおいて得られた検体を、肉眼的あるいは顕微鏡的に観察し診断する。死亡され、解剖の承諾が得られた場合には、病理解剖を行い、病変の質や程度、死因を検討し病理解剖診断を行う。

本院は但馬地域において、唯一、常勤病理医がいる病院であり、手術中の迅速診断や剖検を通常業務として行うことが可能であり、手術時の腫瘍の診断、断端の検討、死因の究明などに寄与している。

組織学的な診断を行うことで希な疾患を見出し、また、病理検体を用いて研究を行い、学会発表や論文作成を行い世に問うことも行っている。

2. 目標・プログラム

ア. 目標とする医師像

病理は全身の臓器を扱うため、病理診断には幅広い知識が必要とされる。我が国における病理診断は、臓器別に出版されている「取り扱い規約」、あるいはWHOが臓器別に出版している「WHO Classification」などに基づき行われる。

人体には様々な臓器が存在するため、毎年何冊かの「取り扱い規約」・「WHO Classification」の新版が出版されている。

よって、病理診断を行うには、疾患、特に肉眼的、組織的病理所見に対して幅広い知識を保持していることと共に、規約に関して最新の知識を保持していることが必要とされる。

心身共に健康であること、思いやりの心などは医師として必要と考えられるが、病理医としては「不斷の努力」が特に必要と思われる。

イ. 経験できる診療、技術

様々な臓器の手術材料の切り出し、組織診断、細胞診断、病理解剖、解剖症例のCPCは日常業務として行っており、検体数も比較的多く、短期間で様々な症例を経験し、技術を習得可能である。解剖は年間十件弱経験可能である。

3. 週間予定

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日/日曜日
午前	7:45～9:00 消化器カンファレンス 9:00～12:00 切り出し・検鏡	9:00～12:00 切り出し・検鏡	9:00～12:00 切り出し・検鏡	8:15～8:45 泌尿器カンファレンス 8:45～12:00 切り出し・検鏡	9:00～12:00 切り出し・検鏡	
午後	13:00～17:15 検鏡 16:30～17:30 婦人科カンファレンス (月2回)	13:00～17:15 検鏡	13:00～17:15 検鏡	13:00～17:15 検鏡 18:00～18:30 乳腺カンファレンス	13:00～17:15 検鏡	

解剖は依頼のあった時に随時行う



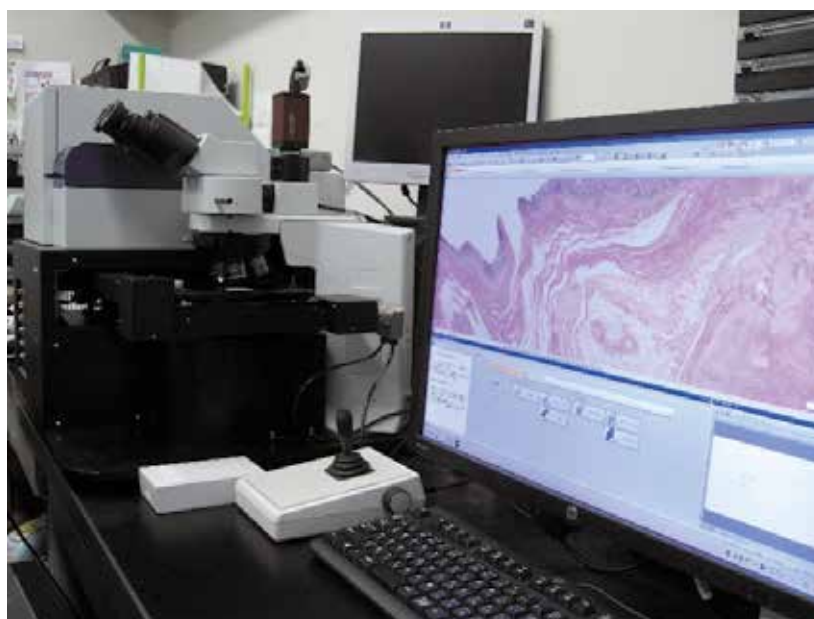
4. 指導医・スタッフ

医 長	中島 直樹
出 身	京都大学 H21
	京都大学医学博士 R2
専 門	病理
認 定	日本病理学会専門医、日本細胞学会 専門医、死体解剖資格(病理)

難解な症例に関しては、様々な施設にコンサルテーションを依頼し、診断精度の向上を図っているため、特定の臓器の病理専門医の指導を仰ぐことも可能である。

5. 診療設備等

バーチャルスライドシステム オリンパス VS-100
病理システム サクラファインテックジャパン PT-10
蛍光顕微鏡 オリンパス BX52
自動免疫染色装置 Leica BOND III Roche Benchmark メア



6. 診療実績

最近5年の細胞診、組織診、病理解剖の実績を下記に示す。特筆すべきは、悪性腫瘍が多く、まれな腫瘍も多数認められることである。例えば2017年の実績において組織診断5,215件の内、1,647件すなわち約30%が悪性腫瘍であった。

本院の医療圏は、但馬地域のみならず京都府北部にまで広がっており、広い地域から紹介患者を受けていること、またこれらの地域では高齢化が顕著であることなどから悪性腫瘍が比較的多いと思われる。

	組織診断	術中迅速組織診断	病理解剖	細胞診	術中迅速細胞診
2020 年	5,001 件	200 件	3 件	4,238 件	77 件
2019 年	5,546 件	236 件	12 体	4,573 件	80 件
2018 年	5,215 件	248 件	9 体	4,613 件	59 件
2017 年	5,057 件	237 件	5 体	4,735 件	69 件
2016 年	4,832 件	217 件	14 体	5,335 件	38 件

7. 学会認定施設

病理学会認定施設 B

日本臨床細胞学会教育認定施設